**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１５回　（２０１５年４月７日）**

**・第１５回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(11)頁**

・📖 （読む）**「神の化身シュリー・ラーマクリシュナ」**

**しかしながら、シュリー・ラーマクリシュナの強烈な魅力と聞く者への強い衝撃を説明するには、先に述べたような性質だけでは不十分である。それは、特別な神性のわれが認められない限り、十分に説明しきれない。**

**シュリー・ラーマクリシュナは、聖者や名高い霊性の師であっただけではなく、クリシュナ、仏陀、イエスの場合と同様、神の化身であられた。その生死はカルマの法則にられず、悩める人びとへの深いみからときおりこの世にして、永遠のび、平安、より深いと自由への道に人々を導くためのものであった。神の化身であるシュリー・ラーマクリシュナのさまざまな気分と教えを証す『ラーマクリシュナの福音』は、いまや、ヴェーダ、聖書、コーランと同じ位置づけにあると言えよう。**

（解説）

インドにも聖者はたくさんいる。キリスト教にも聖者の例はある。日本でも高いレベルのお坊さんはいる。そして彼らの教えはみな素晴らしい。

このように、世界には、「悟った人」と「その素晴らしい教え」はたくさんあります。しかし時とともに、それらは忘れさられていきました。聖者が生きている間と、亡くなってしばらくの間は忘れられずにいても、人びとは、やがてその聖者とその教えを忘れていきました。

しかし一千年以上たっても、忘れられていない聖者とその教えがあります。イエス、お釈迦様、クリシュナ、ムハンマド──彼らはなぜ、忘れられていないのですか？　その教えを聞く人が増えているのですか？　これは、「悟った人だから」「その教えが素晴らしいから」という理由では答えにならない。なぜなら、そうした“忘れられた”聖者は、たくさんいたのですから。なぜ我々は、一千年以上も前の、イエス、お釈迦様、クリシュナ、ムハンマドを思い出し、その教えからインスピレーションをもらっているのでしょうか？　もらう人が増えているのでしょうか？　これはなにが原因なのでしょう？

（参加者）キリスト教がローマ帝国の国教となったように、宗教が政治と結びつくと、すごく広がったりすると思います。仏教もアショカ王が広めました。

（マハーラージ）では、クリシュナは、どう説明しますか？

（参加者）クリシュナは、説明ができないですね。

（マハーラージ）「僧団の力」「たくみなマネージメント」「広告」「高弟」などで、完全な説明は出来ないですね。

何がその、特別な原因なのか？　それは**神様の化身だから**です。**神様の化身の教えだけが、**歴史に耐え、**ずっと続いている**のです。

長い歴史の中で、悟った人はたくさんいても、神様の化身はとても少ない。前回まで見てきたような、シュリー・ラーマクリシュナの特徴──真理を身近な例で説明する、物語を使う、話が面白いなど──は、そんなに珍しいことではありません。ほかの宗教の先生にもできます。

しかし、ほかの宗教の先生にできなかったことは、何ですか？　そのポイントは、(11)頁の第二段落目にあるように、『福音』のメッセージは、ふつうの悟った人の言葉の記録ではない。**神様の化身の言葉**だということです。

考えてみてください。Ｍさんが『ラーマクリシュナの福音』を記録したように、ほかの聖者の話も、Ｍさんのような人が記録を残したとしたら、それは『ラーマクリシュナの福音』と同じような結果が出るでしょうか？　影響はどうですか？　出ません。まったくない、ということはないが、そこまでできません。しかし、イエスやお釈迦さまの教えの記録は、ずっと影響が続いています。なぜなら、**神様の化身が話した言葉**でしたから。

（「神様の化身」については、昨年、インド大使館の『バガヴァッド・ギーター』のクラス（ＨＰのデーター参照）で、詳しく説明しました。）

「神様の化身」というアイデアは、日本にはあまりありません。“お釈迦様は悟った人・目覚めた人”というアイデアはあるが、“お釈迦様は神の化身です”というアイデアはないです。

キリスト教の中には、少しあります。それは、“創造者は神。我々は神がお創りになったもの。我々はみな神の子ども、神の息子”ですが、“イエスだけが、神の本当の息子”で、それがイエスの特徴だというものです。

また、イスラム教では（イエスも預言者として尊敬されていますが）、“ムハンマドは一番最後の、そして一番高い”とされています。ムハンマドは“神様の特別な子供”です。

「神様の化身」というアイデアは、ヒンドゥ教ではとてもポピュラーです。ですがヒンドゥ教では「息子」や「預言者」とは言いません。神の化身はその意味ではない。「**神様の特別な顕（あらわ）れ**」という意味です。

なぜ、ここで“特別”という形容詞を使っているのでしょうか？

（参加者）みんな、神様のあらわれですけれども、（神の化身は）その中でも神様の“特別な”あらわれ。

　そうです。神様だけがあらわれた存在ではない。みんな、あらわれた存在です。人間、動物、植物、みんな、あらわれた。みんな、神様のあらわれた存在。ですけれども神さまの化身は、神様が“特別に”あらわれた存在です。

では、何が“特別”なのか？

神様のシンボルはなんですか？

神様は永遠です。神様は無限です。そしていちばん清らかなものです。愛、知識、美しさ、力、真実。すべての良い性質の最高（の例）が神様です。

その神様の特徴や性質が、少しだけ、神様の「あらわれ」の中にあるのです。たとえば、神様の特徴であるサッチダーナンダ（絶対の存在、絶対の知識、絶対の至福）のうちの、絶対の知識。それは、動物の中にも少し、あらわれています。知識があるから動物は動きます、考えます。また、動物の中でもチンパンジーは犬よりも知識がある。

これは、僧院長だった私のグルスワーミー・ヴィレッシュワラーナンダジから聞いた、本当のお話。

動物園で、一人のお客が一本の棒をチンパンジーのおりに入れました。片方の端をその人が持ち、もう片方をチンパンジーが持って、引っ張り合った。（笑い）チンパンジーはとても力が強い。さてどちらが強いか！　しかしいたずら心からそのお客は、突然、手を放しました！　チンパンジーはひっくり返ってしまった！（笑い）今度、別の客が来て、また棒を入れてチンパンジーとの引っ張り合いになりました。そして今度はチンパンジーが手を放した！（笑い）これが「チンパンジーのからかい」。（笑い）頭がとてもいい。

知識は動物の中にもあるが、人間にはもっともっとある。どこまであるのか？　それは識別ができるくらい。識別は知識のひとつのあらわれです。しかし動物には識別することはできない。自己成長の考えもない。ネコに、「もっと清らかになりたい」（笑い）という考えはないです。

最終的な知識はなにか？　それは「自分の本性を悟る」ということです。動物は大きいかもしれない、強いかもしれない。が、「自分の本性を悟る」「真理を悟る」という考えがあるのは人間だけです。知識がもっともあらわれているのは人間です。

しかし、人間の中でもバラバラです。ふつうの人は、識別のことは考えない。自己成長のことも考えない。悟りのことも考えない。『カタ・ウパニシャッド』で、人間は「穀物（crop）」のようだと言っています。人間は、生えては刈られ、生えては刈られ、数えきれないほどの一生を繰り返す、と。また、そんな人間の中でも、真理のことを考える人は少ない、聖典を聞くチャンスのある人は少ない、その中でも実践をする人はもっと少ない、実践して悟れる人はもっともっと少ない、と。

人間の中でも、悟った人はとても高いあらわれです。けれども、悟った人の中にも、サヴィカルパ・サマーディ（注１）の経験だけで、ニルヴィカルパ・サマーディ（注２）を経験していない人もいます。（☞サマーディの説明は第３回勉強会）それより高いのが、ヴィッギャーナ。それは、ニルヴィカルパ・サマーディに入って（絶対界・超越界に行ったあと）、この世界に戻って来、この世にありながら「すべては神である」という境地で生きるということです。それがヴィッギャーナ。『福音』の中に、それが出てきます。ですからそれ（ヴィッギャーナ）も可能です。ではたとえば、そのヴィッギャーニと、神様の化身との違いは、いったい、何なのでしょうか？

シュリー・ラーマクリシュナと、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ、スワーミー・ブラフマーナンダジとを比べると、わかってくると思います。

ブラフマーナンダジは、いちばんはじめ（の前世では）人間でした。のちに、神様の化身の、永遠のともだち・伴侶になりました。スワミー・ヴィヴェーカーナンダも、いちばんはじめ（の前世は）人間で、たくさん霊的な実践をしたあと、聖者になりました。スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）は、聖者の中でも特別な聖者、サプタ・リシの一人（☞『ラーマクリシュナの生涯』下p366、p355）ですが、しかし最初からそれではない。だんだんと進化（Theory of evolution）しました。みな、Theory of evolution。聖者もTheory of evolution。

スワーミージーもブラフマーナンダジも、今の状態は“悟ってます”。そして、今生に生まれる前から“悟っていました”。では、シュリー・ラーマクリシュナと、なにが違うのでしょうか？

＜**神様の化身は最初から完璧、最初から完全**＞

スワーミージーは、いちばん最初、完璧ではなかった。しかし、神様の化身は最初から完璧、最初から完全。それが違います。人間は実践して実践して進化していく。お釈迦様は、動物から何回も何回も生まれて実践してお釈迦様になりました、というお話がありますね。イエスとシュリー・ラーマクリシュナは、最初から完璧。最初から神様の特別なあらわれでした。「アヴァターラ」（化身）は特別なあらわれ。

　**『バガヴァッド・ギーター』第４章**を見てください。そこに神様の化身のことが書かれています。第１節でクリシュナは、「私はこの教えを太陽神に教えた」と言いました。疑問に思ったアルジュナは、「あなたは太陽神よりあとに生まれたのに、どうして太陽神に教えたなどと言うのですか？」と質問します（第４節）。シュリー・クリシュナは答えます、「アルジュナ、私は何回も何回も生まれました、そしてそれを全部覚えています。しかしあなたは忘れています」（第５節）。「そして私は人々に教えるために何度も生まれています」（第８節）。

　いま、第６節から第９節の翻訳を読んでください。

（参加者で輪読）

（４―６節）私は生まれることも死ぬこともない存在で、すべての生物を支配するイーシュワラ（至高主）なのだが、本来の性質を隠し、神秘的な力によって、このような姿で、現世にあわわれてくるのだ。

（４―７節）ダルマ（正法）が実践されなくなり、邪法が世にはびこったとき、いつでもどこでも、私は姿をとってあらわれるのだ。

（４－８節）正信正行の人びとをたすけ、異端邪信の者どもを打ち倒し、ダルマ（正法）をふたたび世におこすため、私はどんな時代にもする。

（４－９節）**私のと活動の神秘**を理解する者は、その肉体を離れたあと、ふたたび物質界（この世）に誕生することなく、わが永遠の楽土（超越界）に来て住むこととなる。

　**（janmaジャンマ）と活動（karmaカルマ）が特別。これが神様の化身の特徴**です。

＜**神の化身は顕現（誕生）が特別**＞

ではまず、その誕生について、説明します。

　ふつう我々の誕生は、「カルマの法律（law of karma）」によって決められています。それは、前世（複数）での良いカルマ・悪いカルマによって、来生、どのような状態に入るかが決まる、ということ。人間の誕生と死をコントロールしているのは、前世のカルマになります。

しかし神様の化身はそうではない。**神様の化身の誕生にカルマの影響はまったく無い**。

では、何によって、神様の化身は生まれてくるのか？　それは、**自分の願いによって**、です。

ここで、ひとつ、混乱を除いておきましょう。その混乱とは、ニルヴィカルパ・サマーディでブラフマンとひとつになったあと、どうやってブラフマンから個人的な存在に戻るのか、というものです。ブラフマンは純粋な意識で、形がない。形がないものとひとつになって、果たしてそのあと、ふたたび個人的な存在をつくることができるのか？　それは、たとえばこのような身近な質問にたとえることができます──水の一滴が海にはいります。するとその一滴は海と完全にまじり合い、ひとつになります。では、こんど、その一滴を、ふたたび元と同じ状態の一滴に戻すことはできますか？──いいえ、できません。その一滴は、海と、本当にひとつになってしまいましたから。

しかし、神の化身にはそれができる。ニルヴィカルパ・サマーディに入っても、また戻ってくることができるのです。これは、論理的には証明できない、説明もできない。しかし、神の化身にはそれができます。それは、**神秘**です（☞『ギーター』４－６、４－９節）。それは、**神様の願いによって、ブラフマンの願いによって、可能となる**のです。

＜**神の化身はカルマ（活動）が特別**＞

我々も、神様も、願いがないと生まれてきません。しかし神様の願いは、我々のような利己的、世俗的な願いではない。神様の願いは、**皆さんを導くため**です。**それが目的、それが特別なカルマ（活動）**です。

　では、なぜ神様はそのように願うのか？　**自分のこどもが苦しみ悲しんでいる。それを平安にみちびくため、幸せにみちびくため**、**慈悲で生まれてくる**のです。

　また、それは**神様の責任**でもあります。なぜなら、**あなた（神様）が我々をつくりましたから。ですから、我々の苦しみ悲しみを救うのは、あなたの責任**です。あなたは絶対に助けなければならない。それが、あなたの責任です、あなたの仕事です、あなたの義務です。シュリー・ラーマクリシュナは、「この種類の考えが信者には必要です」と教えました。それは、恩寵ではない。祈りでも、お願いでもない。それは、**demand**、我々が**要求**すべきことです。協会もそうではないですか？　神様がつくりましたから、神様・シュリー・ラーマクリシュナが助けなければいけないです。

**神様は自分の願いで生まれます。では、ほかの悟った人やイーシュワラ・コーティ（注３）はどうでしょうか？　彼らは自分の願いではなく、神様の願いで生まれます。神様のミッション（目的）、つまり人間をみちびくために、神様の願いで生まれます。神の化身ひとりではできないことを助けるため、イーシュワラ・コーティたちも生まれてきます。**

シュリー・ラーマクリシュナは言っていましたね、私は近くの場所さえ行くことができない、それほど体は弱い。だから、ナレン（スワーミージー）！　からだ強い！　美しい！　頭いい！　シュリー・ラーマクリシュナは、自分では教えを広めることはできませんでしたが、スワーミージーが、新しいアイデアをいっぱい持って、さまざまな場所で、さまざまな人びとにインスピレーションを与えました（広めるというより、人びとの性格・性質を変化するというかんじで）。

また、スワーミージーは僧団をつくりましたけれども、でも、マネージメントのタレントはあまりなかった。それに必要な、忍耐がなかったです、（笑い）すぐに怒ってました。（笑い）だから、僧団のマネージメントはブラフマーナンダジ。とても静か。とても頭がいい。あるとき、スワーミージーは宣言しました、「今からラカール（ブラフマーナンダジ）を『ラージャ』と呼ぼう」と。「ラージャ」とは国を治める「王様」の意味です。

こうして、僧院の運営は、はじめ、ブラフマーナンダジと二人で行われました。次に、僧院の毎日day-to-dayの複雑な問題の対処、これはサラダーナンダジがしました。僧院のために、この三人が、とても大事でした。インスパイアーするのはスワーミージー、僧院の基礎を築くためにブラフマーナンダジ、毎日のマネージメントはサラダーナンダジ。

ニルヴィカルパ・サマーディに入った人がどうしてまた生まれてくるのか？　それは、神様を助けるために、です。悟った人、イーシュワラ・コーティたちも、そのように生まれてきました。スワーミージーも、ブラフマーナンダジも、神様の願いによって生まれました。人間の解脱を手伝うため生まれる菩薩（ボーディ・サットヴァ）というアイデアもありますね。ただ、誤解しないでください、イーシュワラ・コーティは最初からイーシュワラ・コーティではなかった。しかし、神様の化身は、最初から完璧、最初から完全。

＜**特別な**＞

イエスの生まれが特別であることを皆さんは知っていますか？　ジョセフとマリアはまだ結婚していなかった。結婚の約束だけでした。その時、マリアは妊娠しました。それは特別でしょう？　これは物語ではない。

お釈迦様も同じ。お釈迦様が生まれる前、お母さんは夢を見ました。それは、白い象が自分のおなかの中に入る夢。そのあと、お釈迦様が生まれました。

シュリー・ラーマクリシュナも同じでしょう？　お父さん（クディラム）がガヤーに行ったとき、不思議な夢を見ましたね。（☞『ラーマクリシュナの生涯』上p39~40）また、お母さん（チャンドラ・デーヴィー）も不思議な体験をしました。（☞『ラーマクリシュナの生涯』上p44~47）そしてシュリー・ラーマクリシュナが生まれました。それが、特別です。（☞『ラーマクリシュナの福音』序論p(32)）

この、シュリー・ラーマクリシュナの例があるから、イエスのことも、物語ではなく事実だと信仰するができます。

＜**神の化身は子どもの時から性格が特別**＞

そして神の化身は、子どもの時から、神と人間の性格が混ざっています。あるとき、人間のやりかた、人間の性格。次の瞬間、神のやりかた、神の性格。

たとえば、シュリー・クリシュナ。

クリシュナは人間の子どもがするように、土を食べていた。母ヤショーダ－は、クリシュナの口から土を出そうとして、嫌がるクリシュナの口を強引にあけました。そのとき、ヤショーダ－は見ました、クリシュナの口の中に宇宙のヴィジョン。その宇宙の中に自分も見ました。このように、シュリー・クリシュナはあるとき、人間のやり方、人間の性格、次の瞬間、神の性格、神のやり方。ヤショーダーは、クリシュナの口の中に宇宙のヴィジョンを見て、とても混乱した。しかし、その混乱は、マーヤーの影響で、すぐに忘れました。そうしないと、クリシュナの面倒を見ることできないでしょう？　自分の赤ちゃんが神様だったら、子どもとして育てることが難しくなります。だからヤショーダーは、自分が見たのはまぼろし・想像だったのだろうと、思ったのです。

そして、シュリー・ラーマクリシュナ。

結論が出ない学者たちの議論に、幼いシュリー・ラーマクリシュナが結論を出したこと。シヴァを演じている時、本当のシヴァのあらわれとなり、役を続けることが出来なかったこと。シュリー・ラーマクリシュナもそのように、子どもの時からとても特別です。（☞『ラーマクリシュナの福音』序論p(34)）

＜**神の化身は最初からきよらか**＞

　ふつうの悟った人にはstraggle闘いがあります。奮闘しながら、ゆっくりゆっくりきよらかに、完璧に向います。神様の化身はそうではない。最初からきよらかです。

＜**神様の化身は永遠の愛。非利己的普遍的な愛**＞

神の化身はuniversal love永遠の愛。非利己的と、普遍的な愛。クリシュナ、お釈迦さま、イエス、皆同じです。

＜**神様の化身はいつも神様とつながっている状態**＞

いつも、そして最初から、神様の化身と神さまは、つながっている状態です。英語で、**communion**（霊的親交）といいます。

悟っていない人は、あるときはつながっている、あるときはつながっていない。悟ったあとからつながれる。しかし、神様の化身は、最初から。子どものときから。

なぜなら、**神様の化身は、自分の本性、自分は何の目的のために生まれたか、それが潜在意識の中に入っています**から。ふつうの人間のように話をし、仕事をしていても、潜在意識ではそのことを覚えています。

（スワーミージーがドッキネッショルを二度目に訪問したとき、）スワーミージーに、タクール（シュリー・ラーマクリシュナ）がタッチしましたね。そしたらスワーミージーは何と言いましたか？　「ああ、私に何をなさるのですか？　私に両親がいるのをご存じないのですか？」──それくらい、からだ意識は強い。スワーミージーはもちろん、サプタ・リシでしたけれども、からだ意識があるときもある。しかし神様の化身はそうではない。お母さんが妊娠したときから、私は何の目的で生まれます、私の本性は何ですか、それを知っています

＜**神様の化身の知識は最高の霊的知識**＞

それから知識。霊的な知識も最高です。

＜**神様の化身は全知**＞

**神様の化身は全知です。He knows everything,omniscience.**

タクールは、『福音』でＭさんに言ってますね、「私はあなたの過去、あなたの未来、すべて知っています」。Ｍさんは答えた、「はいそうですね」（笑い）ふつうの人にはもちろん不可能、ふつうの悟った人でもこれほどできない。思い出してください、『ギーター』４章でのクリシュナの答え。

また、こんなこともありました。スワーミージーが英語で突然このように言ったとき、「Oh lord, the man is entering into me.」。日本語で「その方は私の中に入ってます」。つまり、シュリー・ラーマクリシュナが私の中に入っている、そのヴィジョンがスワーミージーに見えたのです。それをタクールは言い当てました、英語の勉強をしたことがなかったのに！　シュリー・ラーマクリシュナは全知ですから。だから勉強してないものも知っています。神様は全知・全能・遍在でしょう？　だからシュリー・ラーマクリシュナは、すべての人の、前世・今生・来生のことまで、すべて、知っていました。

＜**神の化身はマーヤーをコントロールしている**＞

すべての人は、マーヤーにコントロールされています。しかし、神の化身は、マーヤーをコントロールしています。

トター・プリーの例があります。

トター・プリーは、神のマーヤーは信じていませんでした。

あるとき、あまりにお腹が痛くてしかたがなくて、トター・プリーは肉体を放棄しようと決意して、ガンジス川に行きました。しかし、不思議なことに、どこまでいっても浅瀬で肉体を放棄することができなかったのです。そしてそのときトター・プリーは理解しました。自分がどんなに死にたくても、マザー・カーリーがそれを許さなければ、死ぬことも出来ないのだということを。戻ってきて、深く、マザー・カーリーに祈りました。

トター・プリーは、ブラフマンだけを信じていました。ブラフマンのシャクティ、ブラフマンのプラクリティは信じていませんでした。マザー・カーリーは、マーヤーとプラクリティの像、パラマー・プラクリティ（偉大なプラクリティ）でしょう？　それは、ブラフマンだけではなく、シャクティでもある。トター・プリーは悟った人ですけれども、しかしそれを信じていませんでした。だから、死にたくても、死ぬことができなかった。なぜなら、マーヤーがそれをコントロールしていましたから。トター・プリーは、マーヤーを信じていなかったので、教えるために、マーヤーがその状態をつくりました。もしかしたら、シュリー・ラーマクリシュナがその状態を作ったのかもしれない、トター・プリーを教えるために。マザー・カーリーとシュリー・ラーマクリシュナは一緒ですから。（☞『ラーマクリシュナの福音』p(71)）

このように、**悟った人でもマーヤーにコントロールされています。しかし神様の化身はそうではない。マーヤーをコントロールしています**。

ラーマクリシュナの話を、ときどき紹介しますから、「ラーマクリシュナの生涯」「霊性の師たちの生涯」を読んだほうがいいと思います。そうすると、『福音』の説明がもっと理解できると思います。

（『福音』勉強会第１５回、以上）

1. 主客の別を意識した状態での神との交流。
2. ブラフマンとの完全合一の境地。最高のサマーディ。
3. この世に特別の使命を持って生まれてくる、すでに完成された魂。